

研修名 保護者支援・子育て支援

令和元年12月6日（金）13：30～16：00

講義・演習 「保護者に対する相談援助の計画」

講師 桜花学園大学 教授 小嶋 玲子 氏

1 講演要旨

1) 保護者に対する相談援助の計画

ニーズの把握

- ① 保育者は日常的に在園児や保護者とかがかわる中で変化を感じとることができる。
例えば、保護者の外見の変化や忘れ物が多くなる。子どもがぐずる等。
- ② 相談内容の本音と裏側を見る。

受理（インテーク）

- ① ・保護者からの申し出があつて行う場合は、相手の話しを聴く。
・保育者が必要を感じて行う場合は、相手が面接に応じてくれたことに感謝する。
・定期的な懇談会や相談会、教育相談週間等を行う場合は、共通理解を図る。
- ② 保育園は保護者の初めての相談場所であり、相談することに抵抗感がないようにする。

見立て（アセスメント）

- ① アセスメントの方法にはいくつかある。その中のジェノグラムやエコマップは、図式化することで子ども達を取り巻く環境を理解することができる家庭支援に欠かせないもの。
- ② 問題行動は本人にとってSOSのサインである。「何」が問題なのかを見る。

相談援助

- ① 保護者から相談があつた時の会話量は、保護者8：保育者2。保育者はすぐに答えを返そうとせず、もっと話してもらえるように聴く。
- ② 会話をしながらアセスメントをする。
- ③ 努力しているところを認める。
- ④ 「でも」「だめ」の言葉は否定的に捉えられるので使わない。

援助計画（プランニング）

- ① 何を目標としていくのか、話す中で考えていく。
- ② 長期間の場合、一年を通じた行事の流れも影響する。また、保育者の異動等も考慮した計画の連携が必要である。
- ③ プランニングをたてて記録をすることで自己効力感や意欲、質の向上に繋がる。

介入

- ①保護者が客観的に考える要素を含めて話す。
- ②保護者個人への介入だけでなく家庭システムへ介入する場合も必要である。
- ③記録をして自分でロールプレイをする。
- ④保護者（非支援者）は支援してもらっただけでなく、一緒に支援していくチームとなれるのが理想である。

評価

保育者は保護者にどのように支援できたか。また、保護者はどう感じているかを評価する。

終結

保護者が親として自信を持ち、保育者と協力して子どもの育ちを支えていくことが理想である。

2) 保育所の特性を活かした相談援助の利点と困難点

利点

- ・信頼関係がある。
- ・気軽に話しやすい。
- ・親子の情報や家庭環境の把握がしやすい。
- ・介入のタイミングが図れる。

困難点

- ・伝わらない、受け入れてもらえない。
- ・専門外の相談内容がある。
- ・時間や場所の確保が難しい。
- ・職員の連携が難しい。（異動等）

2 感想

保育園での相談は日常の中にあり、改めて相談は始まらないので、保育者は保護者や子どもとかかわる中で変化を把握しておくことが必要であり、相談されたら内容を主観的、客観的に見てどのような援助をしていくのかその技術と計画の大切さを感じました。

保護者から相談があった場合、まず話を聴くことで安心感を与え、相談することに抵抗感がないようにしていきたい。アセスメントをする時、当事者だけを見るのではなく、ジェノグラムやエコマップ等、多方面からのアセスメントを相談援助に用いて、主観で判断しないようにしなければならない。アセスメントから得て、目標→計画→介入としていく中で記録をつけることの大切さや記録から一連の流れを見通し、振り返りや自分自身の質の向上に繋げていきたい。今回の研修で学んだ知識と技術を相談援助の場で活かしていきたい。

（記録 木津川市立いづみ保育園 青木万智子）